

【講評】

原著

近代日本における衣服の伝統と衛生への関心

秋田大学名誉教授 田口秀子

本研究は、近代日本の洋服観の変遷を踏まえて、日本の衣服文化に触れる中で人々の衛生への関心を探っている点で興味深い論文です。庶民の生活に文明開化がもたらされた頃、漱石は、洋服を着ることは西洋人の模倣と言いつつ、日本の伝統文化に相容れないと批判をしていますが、これは、日本人が古来より自然環境の中で培ってきた衣服は、日本人が自然の中で得た伝統の習俗とも言え、自然に適応した衣服であると述べているのに対して、柳田国男は木綿が庶民に好ましい理由を、生理的に肌に合うと指摘し、四季が明確なわが国に適した衣服素材を用いることに関して、欧米の文化に批判もしています。この様な中で、西洋の衣服が人々の日常に取り入れられる関心が、被服衛生学の確立にどのような経緯を辿ったか、多くの先人の言葉を借りて考察している点は非常に興味深いところです。

被服衛生学（衣服衛生学）が学問として確立されたのは、新制大学が確立されてからですが、そこに至る経緯も今後の研究課題として更なる追究をされて行くことを望みます。

---

秋田大学名誉教授 田口秀子

【講評】

原著

女性ファンデーション用編布の素材と編構造が熱・水分移動特性に及ぼす影響

神戸大学 井上真理

本論文は女性がファンデーションを身につけるにあたって、ファンデーション用編布の素材と編構造が、その温熱的快適性にどのように影響を及ぼすかについて、布の水分特性および熱・水分移動特性を丁寧に測定することによって捉えた質の高い論文です。

標準状態における布の水分特性および熱損失特性、不感蒸散を想定した場合と発汗を想定した場合の布の熱・水分移動特性より、繊維素材または編構造との関係を考察し、着用時の温熱的快適性について推察し、それぞれの場合の特徴を捉えています。

本研究は、著者らが用いた不感蒸泄シミュレーション実験、発汗シミュレーション実験それぞれの測定方法によって、女性ファンデーション用編布の熱・水分移動特性を把握することができ、温熱的快適性を考慮した女性ファンデーション用編布の設計を可能とする基礎的研究となっており、示唆に富む結果を得ています。今後の研究のさらなる発展を期待しております。

---

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 井上真理  
〒657-8501  
神戸市灘区鶴甲 3-11  
tel & fax : 078-803-7772  
eメール: inouema@kobe-u.ac.jp